

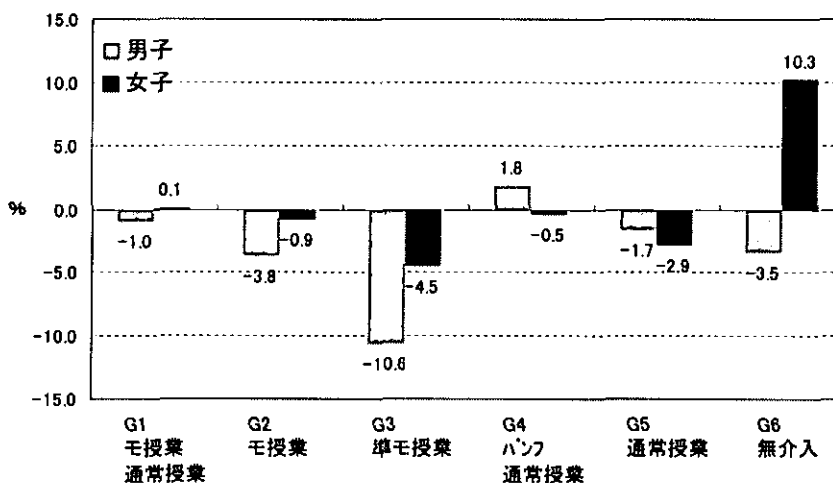
### ◆高校生のセックスを認めている人の割合

性経験の有無に関わらず全ての高校2年生に、「高校生がセックスをすることをどう思いますか」と尋ねた。「かまわないと思う」から「よくないと思う」の4段階で高校生のセックスの容認の程度を調べた。介入により、性意識が活発化したか調べるために、「かまわないと思う」、「どちらかと言えばかまわないと思う」人の割合(%)を介入前後で性別介入校群別に表13に示し、「かまわないと思う」+「どちらかと言えばかまわないと思う」を合計した割合の介入前後の差を図12に示した。G1~G3のモデル授業群では男女とも1~10%容認率が減少し、通常授業群G5でも1~3%の減少、また無介入群G6では、女子で逆に10%の容認率の上昇が確認され、女子では介入効果に対応する傾向が認められた。

表13. 高校生のセックスを認めている人の変化の比較

	男子			女子			
	事前	事後	差	事前	事後	差	
G1	n	406	400	479	460		
	かまわない	59.1	57.0	-2.1	50.5	49.8	-0.7
	ややかまわない	18.2	19.3	1.1	25.5	26.3	0.8
	合計	77.3	76.3	-1.0	76.0	76.1	0.1
G2	n	65	63	292	279		
	かまわない	60.0	58.7	-1.3	36.0	33.3	-2.7
	ややかまわない	23.1	20.6	-2.5	24.7	26.5	1.8
	合計	83.1	79.3	-3.8	60.7	59.8	-0.9
G3	n	186	178	519	491		
	かまわない	62.4	49.4	-13.0	46.1	40.9	-5.2
	ややかまわない	16.7	19.1	2.4	24.1	24.8	0.7
	合計	79.1	68.5	-10.6	70.2	65.7	-4.5
G4	n	386	370	570	514		
	かまわない	53.6	53.2	-0.4	47.7	47.5	-0.2
	ややかまわない	19.4	21.6	2.2	27.5	27.2	-0.3
	合計	73.0	74.8	1.8	75.2	74.7	-0.5
G5	n	976	939	860	834		
	かまわない	56.8	54.7	-2.1	50.5	48.2	-2.3
	ややかまわない	17.8	18.2	0.4	23.4	22.8	-0.6
	合計	74.6	72.9	-1.7	73.9	71.0	-2.9
G6	n	249	239	85	81		
	かまわない	49.8	43.9	-5.9	40.0	46.9	6.9
	ややかまわない	18.5	20.9	2.4	17.6	21.0	3.4
	合計	68.3	64.8	-3.5	57.6	67.9	10.3

図12. 高校生のセックス容認度の変化(高校2年生)



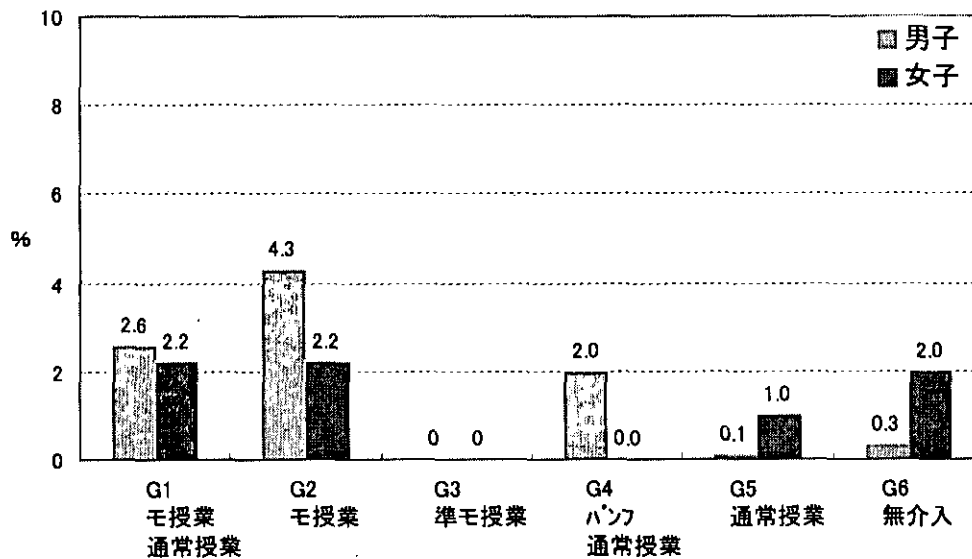
#### (4) セックス経験率への影響

介入により性行動が活発化したかを調べるために介入前後の性経験率を比較した。セックスの経験率を介入前後で性別介入校群別に表14に示し、介入前後の差を図13に示した。介入群、非介入群ともに数%経験率が上昇したが、介入校と非介入校との差異は確認されなかった。

表14. 性経験率の変化

		男子			女子		
		事前	事後	差	事前	事後	差
G1	人数	406	400		479	460	
	性経験率	22.2	24.8	2.6	36.5	38.7	2.2
G2	人数	65	63		292	279	
	性経験率	35.4	39.7	4.3	24.7	26.9	2.2
G3	人数	186	178		519	491	
	性経験率	26.3	24.2	-2.1	33.3	31.0	-2.3
G4	人数	386	370		570	514	
	性経験率	22.6	24.6	2.0	34.4	33.9	-0.5
G5	人数	976	939		860	834	
	性経験率	27.2	27.3	0.1	34.3	35.3	1.0
G6	人数	249	239		85	81	
	性経験率	18.9	19.2	0.3	41.2	43.2	2.0

図13. 性経験率の変化(高校2年生)



### 1-③ 高校生モデル授業プロジェクトの評価のまとめ

今回のプロジェクトによって、以下のような成績が得られた。

- ① モデル授業、もしくはモデル授業の教材に一部を用いた授業によって、数十%にも及ぶ大幅な知識の上昇が生じることが観察された。
- ② コンドームに対する肯定的な態度が、介入によって上昇する傾向が認められた。
- ③ コンドームの使用意図も、介入によって上昇もしくは低下を抑制する傾向が認められた。
- ④ コンドーム購入経験については、男子で介入によって上昇する傾向が認められた。
- ⑤ 一番最近のコンドーム使用経験についても、男子で介入効果に対応する傾向が認められた。
- ⑥ セックスを拒否する自信（コントロール感）については、男女ともに介入によって上昇する傾向が認められた。
- ⑦ 高校生のセックスを認める生徒の割合は、介入後減少する傾向が認められた。
- ⑧ 介入によってセックス経験率が上昇する傾向は認められなかった。

つまり、本年度の研究で、我々が開発したモデル授業やその教材が、知識、態度、意図、コントロール感、コンドーム使用、性規範に、性行動を活発化させることなく、ポジティブな影響を与えることが示唆された。

## 2. C市中学生に対する HIV 予防介入研究:WYSH 中学生プロジェクト

### 研究の背景および目的

C市の10代女性の人工妊娠中絶率はA県内では最高率を示し(県平均の2倍)、近年急増を続けている。このような状況に対し、本年度よりC市若者を対象とした重点的予防プロジェクトが開始された。高校生に対しては、A県のWYSH高校生プロジェクトの一環として取り組みが行なわれているが、C市ではそれに加え、C市内の中学生全員に対する独自プロジェクトを開始した。

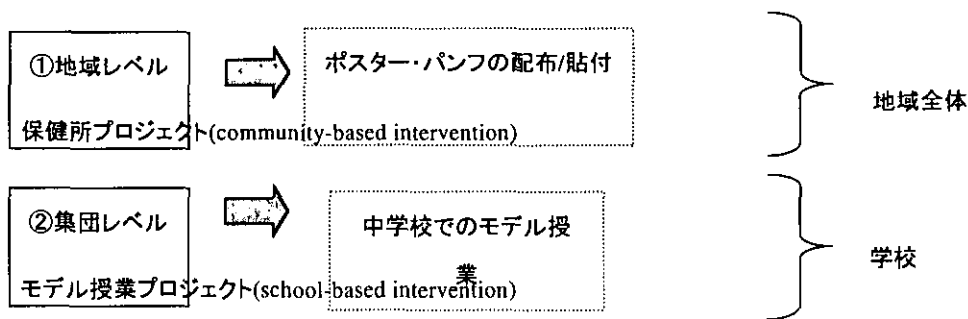
まず初年度である今年度は、全国的にも中学生に対する大規模性行動調査が存在しないことから、①C市中学生の性意識・性行動の実態を性別学年別に正確に把握する。②対象となった中学生に適した予防教育モデルの開発を行なう。上記二つの目的で研究を実施した。

### 研究の特徴

#### ①マルチレベル介入デザイン

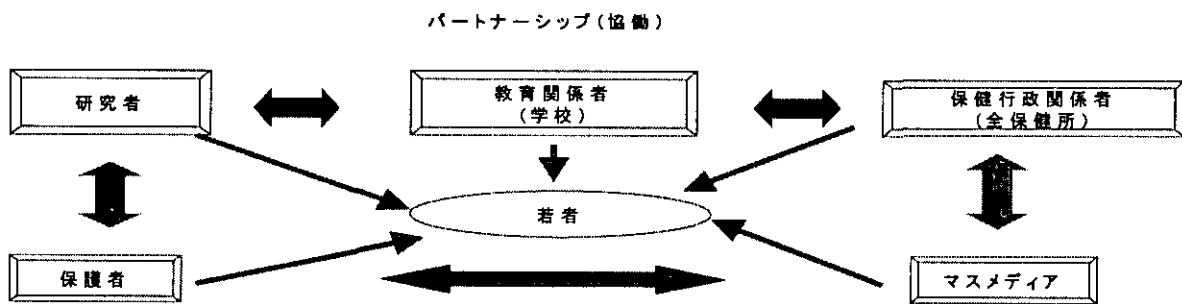
本研究はマルチレベル予防介入研究である。予防介入は2つのレベル(社会、集団)で行なわれ、まず、社会レベルとしては、地域保健行政と共同で全市的な予防啓発事業(保健所プロジェクト)を行い、若者に対する集中的な予防啓発(ポスター・パンフの貼付・配布)を実施した(community-based intervention)。集団レベルとしては、C市の全中学生を対象に、生徒全体に対する集団教育(モデル授業プロジェクト)を行なった。(school-based intervention)

#### マルチレベル予防介入デザイン



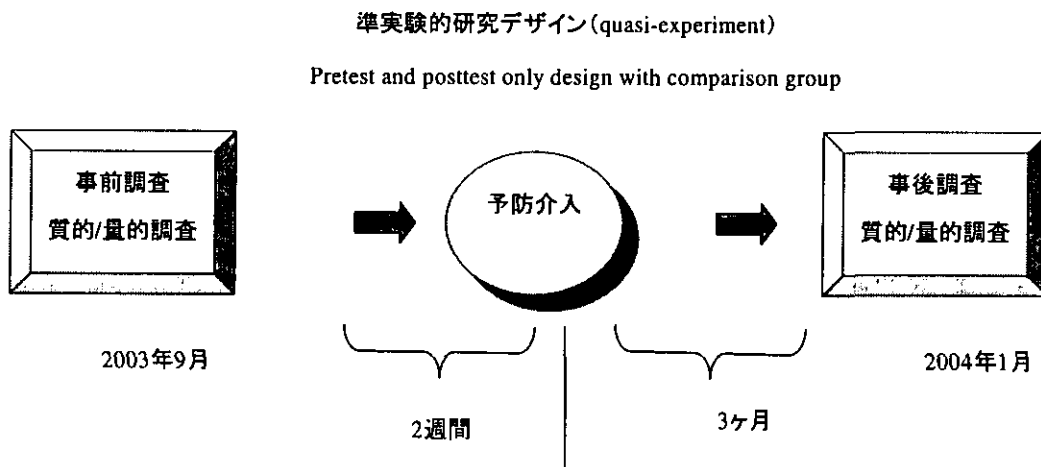
### ②パートナーシップ(協働)

効果的な予防対策を展開するには、若者（中学生）を取り巻く関係者のパートナーシップが必須となる。本研究では、地方自治体（C市保健福祉部、C市教育委員会）、学校、保護者、研究者間に対等なパートナーシップが形成され、従来の top-down 的予防対策ではなく、中学生を中心に bottom-up 的対策が展開された。



### ③準実験的研究デザイン

準実験的介入デザインを用い、県下全域の予防介入の評価を学校を観測点として行い、介入前（2003年9月）と介入後（2004年1月）に質問紙調査（量的調査）とフォーカスグループインタビュー（質的調査）を実施した。介入内容に学校間で大きな格差が見られたため、レベルの差異によって、最も介入レベルの低い（もしくは無介入の）学校群を比較群として介入効果を比較した。



## 2-① C市中学生のエイズ関連知識・意識・行動に関する調査

**調査主体**：研究班およびC市教育委員会

**調査実施時期**：事前調査（2003年9月）-事後調査（2004年1月）

**対象**：A県C市の全公立中学校22校の全学年を対象とした。

**調査の手順**：

- ・ **研修会①**（2003年8月）全対象校の管理職・保健主事・養護教諭を対象に予防教育の必要性および調査の趣旨・方法に関する説明を行なうために2日間の研修会を実施。
- ・ **研修会②**（2003年9月）校長会で、研修会①に参加できなかった校長を対象に調査の趣旨・方法に関する説明を行なった。
- ・ C市教育委員会経由で校長あてに調査依頼書セットを送付した。（2003年9月）
  - \* 調査依頼書セット
    1. 調査依頼文（研究班分担研究者及びC市思春期の性教育推進委員として）
    2. C市教育委員会の調査依頼文
    3. 調査マニュアル
    4. アンケート用紙（見本）
    5. アンケート諾否の返信用FAX用紙
- ・ 未回答校に対して電話による連絡（研究班）。

### 調査方法

無記名自記式質問紙調査、学校における集合調査。調査は試験と同じ要領で実施（記入中は他の生徒と私語禁止。他の生徒の解答用紙は見ないこと。全員が調査終了するまで席を離れないこと）。調査に先立ち、各校校長より全教諭に調査の趣旨と重要性を通知し、各教諭から生徒達へ、調査の重要性を説明した。

### 質問紙の開発

1. これまでの我々が開発した高校生対象の質問紙を基に中学生用質問紙の第1案を作成。
2. 関東・関西・九州から数人の中学校校長、教頭、保健主事、エイズ教育担当教諭、家庭科教諭、養護教諭等に依頼して、質問紙第1案に対するコメントを収集し、第2案を作成。
3. 関西某公立中学校の中1、中2、中3の20名を対象に予備調査を実施し、さらに関西某私立女子中学校の中1、中2、中3を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、質問紙第2案に対する中学生の反応を調べ最終案を作成した。

上記1～3の過程を経て、今年度質問紙を開発した。

- (1) **事前調査質問紙**：自記式で12ページ、回答所要時間は約15分間、主質問42問、付問11問であった。質問紙の構成は、①属性、②家族構成、③家庭・地域・学校での会話頻度、④エイズ/性感染症関連知識、⑤性情報への曝露、⑥エイズ/性感染症リ

スク認知、⑦日常生活（各種経験）⑧交友関係、⑨性行動、⑩コンドーム使用や性に対する態度、⑪性モラル、⑫性教育・性情報に対する要望などである（資料3）。

- （2）事後調査質問紙：自記式で11ページ、回答所要時間は約15分間、主質問34問、付問11問であった。質問項目の構成は、①属性、②エイズ/性感染症関連知識、③エイズ/性感染症リスク認知、④交友関係、⑤性行動、⑥コンドーム使用や性に対する態度、⑦性モラル、⑧予防啓発への暴露状況などである（資料4）。事前調査の質問紙との違いは、事後調査の質問紙では、事前調査に含まれていた日常生活に関する質問、性情報の暴露に関する質問、性教育に関する質問群が削除され、かわりに予防啓発への暴露状況等を問う質問群が追加されたことである。

### 倫理的配慮

倫理的配慮として、質問紙の表紙には、匿名性を保つこと、データは統計処理され個人が特定されることはないことを明記した。また、調査開始に際し、この調査は強制でないこと、答えたくなかったら答えなくてもよいこと（白紙の提出可）、記入しなかったことによって成績や学校での評価に影響することはないこと、調査を拒否しても何ら不利益を被らないことを質問紙の表紙にも記載しかつ教員より口頭でも説明した。また、調査終了後は、生徒自身により、添付のカラーシールで封をさせ、学校関係者は内容を見ないことを説明した。

### 調査参加高等学校

C市全中学校22校に調査を依頼した。事前事後調査とも、全校22校100%が調査に参加した。

調査に参加した生徒総数は、事前調査7,089人（男子3,550人、女子3,529人、不明10人）で、事後調査5,987人（男子2,989人、女子2,967人、不明31人）で合計13,076人であった。参加者の性別学年別内訳を下記に示した（表1）。

注\*：事後（介入後）調査の参加者数が少ない理由は、中学3年生が受験が間近であることから、一部の学校では中学3年生は事後調査には参加しなかったため。

表1. 参加者の性別・学年別内訳

	事前調査				事後調査			
	全体	男子	女子	不明	全体	男子	女子	不明
全体	7089	3550	3529	10	5987	2989	2967	31
1年生	2253	1111	1138	4	2153	1070	1075	8
2年生	2341	1175	1165	1	2256	1125	1122	9
3年生	2474	1251	1221	2	1562	786	769	7
不明	21	13	5	3	16	8	1	7

## 調査結果

C市中学生に対する事前調査結果を性別学年別に比較した。一部は高校2年生の調査との比較も行なった。

### (1) 家庭生活

#### ◆家族との会話頻度 (表2, 表3)

C市中学生の家族との会話頻度を尋ねた。まず、「家族とよく話をする」生徒の割合を全体的に見ると、男子の6～7割、女子の8～9割と中学生の大半が家族とよく話をしてきた。学年別に比較すると、中1男子72.1%、中2男子63.9%、中3男子58.0%で、女子では、中1女子86.0%、中2女子77.9%、中3女子80.1%と男女とも学年が上がるにつれて、5～10%会話が減少していた ( $p<0.001$ )。これらの会話頻度を「まったく話をしない=1」「ほとんど話をしない=2」「たまに話しをする=3」「よく話をする=4」としてスコア化し、各学年男女の平均スコアを比較した。男子では、中1=3.6、中2=3.5、中3=3.5、女子では、中1=3.8、中2=3.7、中3=3.7であった。前述の高校生の調査結果と比較すると高校2年生で中3の会話頻度とほぼ同じであり、中3以降は安定していると考えられる。次に、性別で比較すると、女子より男子の方が全学年を通して会話が少ない傾向が観察された (どの学年の男女差も  $p<0.001$ )。また、「よく話をする」相手は、男女とも母親が約9割で最も多く、兄弟姉妹が約7割、父親4～6割の順であった。学年による変化をみると、一般的に学年が上がるにつれ会話頻度が減少するが、相手の内訳を見ると、母親との会話はほとんど減少しておらず、男女とも父親との会話が減少し ( $p=0.04$ )、男子では兄弟姉妹との会話も減っていた ( $p=0.02$ )。

表2. 家族との日常会話頻度

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったく話をしない	6	0.5	1	0.1	7	0.6	9	0.8	9	0.7	2	0.2
ほとんど話をしない	16	1.4	15	1.3	34	2.9	24	2.1	52	4.2	26	2.1
たまにはなしをする	264	23.8	125	11.0	344	29.3	192	16.5	437	34.9	200	16.4
よく話をする	801	72.1	979	86.0	751	63.9	907	77.9	725	58.0	978	80.1
不明	24	2.2	18	1.6	39	3.3	33	2.8	28	2.2	15	1.2
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

表3. よく話をした相手は誰か

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
父	473	59.1	410	41.9	413	55.0	362	39.9	382	52.7	351	35.9
母	705	88.0	908	92.7	647	86.2	838	92.4	626	86.3	900	92.0
兄弟姉妹	579	72.3	687	70.2	540	71.9	620	68.4	476	65.7	667	68.2
祖父母	137	17.1	152	15.5	111	14.8	119	13.1	99	13.7	101	10.3
その他	13	1.6	25	2.6	9	1.2	19	2.1	10	1.4	15	1.5
	801		979		751		907		725		978	



#### ◆男女交際に関する会話経験（表4）

次に男女交際について家族と話した経験を尋ねた。男女交際について話した経験は男子が1～2割、女子では3～5割で男女とも学年があがるにつれて上昇していた（学年変化は男女とも  $p<0.001$ ）。高校生になるとさらに男女交際に関する会話が上昇していた（高2男子4割、女子6割）。性別では、女子の方が男子よりも2割以上も高く（どの学年の男女差も  $p<0.001$ ）、男女交際に関する家族の態度が男女で大きく差があることが示された。性差に関しては高校生でも同様の傾向が観察された。

表4. 家族と男女交際について話した経験

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
ある	154	13.9	351	30.8	199	16.9	465	39.9	288	23.0	606	49.6
ない	921	82.9	761	66.9	965	82.1	689	59.1	954	76.3	613	50.2
不明	36	3.24	26	2.3	11	0.94	11	1.0	9	0.72	2	0.2
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

#### ◆家族との会話頻度と性規範との関係（表5、表6）

家族との日常会話頻度と性規範（中学生がセックスすることを構わないと思っている生徒の割合、高校生がセックスすることを構わないと思っている生徒の割合）の関係をみると、（他の因子との交絡の可能性は否定できないが）、中学生のセックスを容認している生徒の割合は、会話を「よくする」生徒では、容認率が男女とも約2割であるのに対し、その容認率は家族との会話頻度が減少するにつれて上昇し、「全く話をしない」生徒では男子の6割弱、女子の8割の容認率で、男女とも会話頻度とセックスの容認度との間には逆相関関係が観察された（男女とも  $p<0.001$ ）。高校生のセックス容認率に関しても全く同じ傾向が見られた（男女とも  $p<0.001$ ）。

表5. 日常会話頻度別「中学生のセックスをかまわない」と思っている人の割合

	全学年			
	男	%	女	%
全く話をしない	10	55.6	7	77.8
ほとんど話をしない	35	42.7	20	32.3
たまにはなしをする	250	29.6	116	26.1
よく話をする	383	20.4	433	17.0
不明	23	35.4	9	17.6

表6. 日常会話頻度別「高校生のセックスをかまわない」と思っている人の割合

	全学年			
	男	%	女	%
全く話をしない	15	83.3	8	88.9
ほとんど話をしない	49	59.8	31	50.0
たまにはなしをする	421	49.9	201	45.2
よく話をする	735	39.2	965	37.9
不明	38	58.5	23	45.1

## (2) 周囲の大人との関係

### ◆近所の大人との会話頻度(表7)

地域社会との関わりを調べる目的で、近所の大人との会話頻度を尋ねた。最も多かったのは、近所の大人と「挨拶をするだけ」の関わりで全体の約半数を占め、「たまに話をする」中学生は約3割～5割、「全く話をしない」中学生が1割程度存在し、近所の大人と「よく話をする」は数%にとどまった。これらの傾向は高校生の調査結果と同じであった。「よく話をする」「たまに話をする」は学年とともに有意に減少し ( $p<0.001$ )、また男女比較では、1年生では有意の男女差 ( $p<0.001$ ) が存在するが、2年生以上では有意差はなかった。つまり、学年が上がるにつれてやや減少し、男女比較では、女子の方がやや会話が多い。

表7. 近所の大人との会話頻度

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったく話をしない	65	5.9	60	5.3	109	9.3	94	8.1	154	12.3	97	7.9
挨拶をするだけ	563	50.7	506	44.5	624	53.1	618	53.0	675	54.0	679	55.6
たまに話をする	455	41.0	507	44.6	410	34.9	415	35.6	393	31.4	411	33.7
よく話をする	27	2.4	64	5.6	31	2.6	35	3.0	28	2.2	34	2.8
不明	1	0.1	1	0.1	1	0.1	3	0.3	1	0.1	0	0
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

### ◆学校の先生との雑談頻度(表8)

学校の先生との雑談頻度を表8に示す。最も多かったのは、先生と「たまに話しをする」で男女とも約6割で、先生と「よく話をする」生徒は約1割であるが、「まったく話をしない」生徒も4～8%程度存在した。男女差は各学年で有意 ( $p<0.05, 0.001$ ) で、女性が教諭との会話が多い傾向があり、学年間には差は認められなかった。

表8. 学校の教諭との会話の頻度

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったく話をしない	78	7.0	45	4.0	83	7.1	53	4.5	76	6.1	52	4.3
挨拶をするだけ	283	25.5	265	23.3	327	27.8	251	21.5	333	26.6	220	18.0
たまに話をする	629	56.6	659	57.9	672	57.2	690	59.2	729	58.3	777	63.6
よく話をする	94	8.5	138	12.1	82	7.0	161	13.8	108	8.6	170	13.9
不明	27	2.4	31	2.7	11	0.9	10	0.9	5	0.4	2	0.2
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

## (3) エイズ/性感染症関連基礎知識の正解率

### ◆エイズ基礎知識(表9)

エイズ基礎知識(HIV疫学、HIV感染経路)の正解率を各設問別に性別学年別に表9に示した。「若者の増加」は、各学年とも常に女子が男子より高く ( $p<0.01, 0.001$ )、「食器での感染」は、女子に高い傾向があり(一部で  $p<0.01$ )、お風呂、トイレに関する質問に対し

ては、男女差は認められなかった。どの項目も学年が上るとともに、正解率は、3-4割台から5-6割台に上昇した ( $p<0.001$ )。

表9. 知識正解率：エイズ基礎知識

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
若者の HIV 増加	378	34.0	482	42.4	510	43.4	583	50.0	748	59.8	825	67.6
食器で感染	406	36.5	457	40.2	557	47.4	622	53.4	652	52.1	762	62.4
お風呂で感染	437	39.3	432	38.0	561	47.7	555	47.6	648	51.8	641	52.5
トイレで感染	466	41.9	475	41.7	615	52.3	567	48.7	682	54.5	677	55.4

#### ◆エイズ検査関連知識（表10）

エイズ検査関連知識（HIV抗体検査のタイミング、HIV陽性者の個人情報保護、検査場所）の正解率を各設問ごとに性別学年別に表10に示した。「感染者は国に住所名前が報告される」は、男子より女子で正解率が高いが ( $p<0.001$ )、多では男女差はなく、学年が上るにつれて、検査タイミングに関する知識は男女ともに有意に上昇した ( $p<0.001$ )。

表10. 知識正解率：エイズ検査関連知識

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
検査感染数日後に判明	92	8.3	98	8.6	125	10.6	127	10.9	189	15.1	216	17.7
感染者は国に住所名前が報告される	285	25.7	399	35.1	308	26.2	397	34.1	331	26.5	448	36.7
保健所で無料匿名検査	218	19.6	209	18.4	208	17.7	229	19.7	288	23.0	254	20.8

#### ◆STD 関連基礎知識（表11）

STD 関連基礎知識（STD 増加、クラミジアは STD、HIV/STD 相互作用、STD の無症状性、STD による不妊、STD による子宮癌）の正解率を各設問ごとに性別学年別に表11に示した。「STD 増加」、「STD による不妊」は、全ての学年で男子より女子で正解率が高く ( $p<0.001$ )、どの項目も学年が上るにつれて正解率が上昇した ( $p<0.01$ ,  $0.001$ )。STD に関しては、ほとんどの項目で正解率は2-3割と他の知識に比べて低率であった。

表11. 知識正解率 STD 関連知識

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
若者で STD 流行	324	29.2	442	38.8	464	39.5	570	48.9	710	56.8	813	66.6
クラミジアは STD	114	10.3	104	9.1	148	12.6	178	15.3	277	22.1	311	25.5
STD と HIV 相互作用	195	17.6	216	19.0	197	16.8	241	20.7	288	23.0	327	26.8
STD 必ず症状	85	7.7	97	8.5	133	11.3	148	12.7	193	15.4	242	19.8
STD で不妊	238	21.4	331	29.1	243	20.7	350	30.0	362	28.9	470	38.5
STD で子宮ガン	165	14.9	217	19.1	180	15.3	225	19.3	279	22.3	308	25.2

◆ピル/コンドーム関連知識（表 12）

ピル（ピルは避妊薬、ピルはSTDを予防しない）の正解率を各設問ごとに性別学年別に表 12 に示した。コンドームについては、男女差はないが、ピルの妊娠予防効果は、男子より女子で正解率が高かった（ $p<0.001$ ）。ピルにSTD予防効果がないという知識の正解率は学年が上るにつれ、特に女子で上昇率が高く、2,3年で男女差が有意となる（ $p<0.01, 0.001$ ）となったが、正解率は20%前後にとどまり低調である。

表 1 2. 知識正解率：エイズ予防方法関連

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
コンドームはHIV予防	388	34.9	416	36.6	596	50.7	624	53.6	779	62.3	786	64.4
ピルは妊娠予防	126	11.3	258	22.7	226	19.2	432	37.1	399	31.9	574	47.0
ピルでSTD予防	72	6.5	94	8.3	111	9.4	182	15.6	201	16.1	282	23.1

（4）性情報

◆セックスの意味を知っている人の割合（表 13）

セックスがどのような行為か知っている中学生の割合を表 13 に示した。中1で7~8割、中2で8~9割、中3で9割と中学生のほとんどがセックスの意味を知っていた。学年があがるごとに上昇し（男女とも $p<0.001$ ）、性別では女子の方が知っている人が多かった（男女差は、 $p<0.01, 0.001$ ）。

表 13.セックスの意味を知っていますか。

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
はい	804	72.4	943	82.9	971	82.6	1027	88.2	1101	88.0	1137	93.1
いいえ	276	24.8	163	14.3	170	14.5	123	10.6	134	10.7	63	5.2
不明	31	2.8	32	2.8	34	2.9	15	1.3	16	1.3	21	1.7
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

◆セックスの意味をいつ知ったか（表 14）

小学校でセックスの意味を知っていた生徒は5~7割であった。学年性別に比較すると、男子では、1年59.0%、2年47.4%、3年44.8%と学年が下がるほど高くなり（ $p<0.001$ ）、女子でも1年73.3%、2年61.5%、3年61.9%と男子と同じく一年生が最も高く、低学年ほど早くセックスの意味を知っていた（ $p<0.001$ ）。また、男女で比較すると、小学校で意味を知った人の割合は女子の方が1割以上高かった（ $p<0.001$ ）。

表 14.セックスの意味をいつ知ったか

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
小学校	656	59.0	834	73.3	557	47.4	717	61.5	560	44.8	756	61.9
中学校	137	12.3	90	7.9	398	33.9	277	23.8	515	41.2	343	28.1
不明	318	28.6	214	18.8	220	18.7	171	14.7	176	14.1	122	10.0
合計	1111	100	1138	100	1175	100	1165	100	1251	100	1221	100

◆最初のセックスの情報源 (表 15)

はじめての性情報は生涯の性行動に大きな影響を及ぼすと言われているが、表 15 に、「セックスについてはじめて知ったのは誰 (何) からか?」の結果を示す。多い順に上位 3 位までを示すと、男子生徒では、全学年とも 1 位は「男友達」、2 位は「テレビドラマ」と「保健体育教諭」で、3 位は「マンガ」であった。一方、女子では、1 位は「女友達」、2 位は「テレビドラマ」、3 位は「マンガ」であり、「保健体育教諭」を除くほとんどが不確かな情報源からの情報であった。テレビドラマや漫画の影響が大きいことが伺われるが、それは男子より女子で特に顕著であった ( $p<0.001$ )。

表 15.セックスについて最初に知った情報源(複数回答)

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
男友達	578	71.9	177	18.8	687	70.8	241	23.5	771	70.0	243	21.4
女友達	45	5.6	413	43.8	55	5.7	490	47.7	73	6.6	568	50.0
彼氏彼女	15	1.9	10	1.1	13	1.3	21	2.0	12	1.1	23	2.0
養護教諭	67	8.3	180	19.1	41	4.2	191	18.6	53	4.8	226	19.9
保体教諭	88	10.9	130	13.8	196	20.2	231	22.5	161	14.6	253	22.3
家庭科教諭	7	0.9	7	0.7	5	0.5	14	1.4	7	0.6	10	0.9
クラス担任	52	6.5	63	6.7	47	4.8	51	5.0	44	4.0	74	6.5
専門家	8	1.0	4	0.4	2	0.2	1	0.1	4	0.4	5	0.4
兄	19	2.4	10	1.1	21	2.2	11	1.1	15	1.4	12	1.1
姉	10	1.2	22	2.3	5	0.5	25	2.4	5	0.5	30	2.6
父	7	0.9	13	1.4	12	1.2	12	1.2	10	0.9	15	1.3
母	15	1.9	48	5.1	16	1.6	45	4.4	17	1.5	54	4.7
新背 k	8	1.0	10	1.1	7	0.7	4	0.4	10	0.9	12	1.1
ニュース	39	4.9	58	6.2	38	3.9	55	5.4	50	4.5	54	4.7
ドラマ	126	15.7	281	29.8	115	11.8	311	30.3	96	8.7	282	24.8
特番	28	3.5	36	3.8	47	4.8	46	4.5	27	2.5	48	4.2
ビデオ	42	5.2	25	2.7	88	9.1	28	2.7	93	8.4	38	3.3
新聞	12	1.5	14	1.5	19	2.0	15	1.5	18	1.6	16	1.4
雑誌	54	6.7	121	12.8	76	7.8	161	15.7	125	11.4	150	13.2
漫画	105	13.1	295	31.3	165	17.0	335	32.6	148	13.4	311	27.4
専門書	6	0.7	11	1.2	14	1.4	9	0.9	7	0.6	7	0.6
インターネット	38	4.7	22	2.3	33	3.4	23	2.2	35	3.2	12	1.1
その他	21	2.6	30	3.2	17	1.8	28	2.7	20	1.8	24	2.1
特にない	20	2.5	47	5.0	39	4.0	55	5.4	55	5.0	78	6.9

◆性情報への曝露状況（表 16）

表 16 に、セックスの意味を知っている中学生の小学校時代の性メディアへの曝露状況を示す。性描写のあるマンガへの曝露は男女とも 4～5 割で、アダルトビデオへの曝露は男子の 2 割弱、女子の約 1 割であった（男女差  $p<0.01$ ,  $0.001$ ）。学年別に比較すると、アダルトビデオは学年差はないが、エッチマンガでは低学年ほど上昇しており（ $p<0.001$ ）、低学年ほど性情報の中におけるマンガの占める割合が増加している可能性が示唆された。

表 16.小学生で性情報に曝露された人の割合

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
アダルトビデオ見た人	123	15.2	80	8.5	179	18.4	105	10.2	174	15.8	91	8.0
エッチな表現のある漫画	387	48.1	467	49.5	430	44.2	484	47.1	430	39.1	424	37.3
全体	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

（5）リスク認知

◆予定外の妊娠に対するリスク認知（表 17）

◆一般の性感染症罹患のリスク認知（表 18）

◆HIV 感染のリスク認知（表 19）

中学生に将来「予定外の妊娠の可能性」（表 17）「一般の性感染症罹患の可能性」（表 18）「HIV 感染の可能性」（表 19）を尋ねた。まず、これら 3 つのリスク認知の設問に対し、“わからない”と回答した生徒の割合は、2~4 割とかなりの割合を占めており、女子より男子で 10%程度効率であった（ $p<0.001$ ）。それ以外では、いずれの設問でも学年・性別にかかわらず、最も多かったのは“まったくないと思う”という回答であり、まだリスクとして認識されていない状態にあった。「予定外の妊娠」リスク認知については、どの学年でも男女差はないが、学年が上るにつれて上昇し（ $P<0.05$ ,  $0.01$ ）、「一般の STD 罹患」リスク認知は、どの学年も性差はないが、「ありそうだと思う」という回答は、学年とともに有意に上昇した（ $P<0.01$ ）。さらに「HIV 感染」リスク認知についても、大きな性差は認められず、学年によってやや上昇する傾向があった（ $P<0.05$ ）。リスク認知の大きさについては、妊娠>STD =HIV の順序であった。

表 17.リスク認知(予定外の妊娠)

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったくないと思う	225	28.0	329	34.9	289	29.8	347	33.8	349	31.7	399	35.1
あまりないと思う	124	15.4	169	17.9	132	13.6	209	20.4	198	18.0	242	21.3
ありそうだと思う	94	11.7	139	14.7	121	12.5	129	12.6	164	14.9	202	17.8
かなりあると思う	13	1.6	8	0.8	20	2.1	13	1.3	31	2.8	22	1.9
わからない	324	40.3	285	30.2	394	40.6	321	31.3	350	31.8	259	22.8
不明	24	3.0	13	1.4	15	1.5	8	0.8	9	0.8	13	1.1
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

表 18. リスク認知(STD 罹患)

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったくないと思う	229	28.5	334	35.4	276	28.4	320	31.2	285	25.9	352	31.0
あまりないと思う	176	21.9	231	24.5	193	19.9	243	23.7	251	22.8	282	24.8
ありそうだと思う	58	7.2	60	6.4	89	9.2	83	8.1	157	14.3	151	13.3
かなりあると思う	9	1.1	4	0.4	8	0.8	9	0.9	12	1.1	6	0.5
わからない	320	39.8	304	32.2	394	40.6	366	35.6	389	35.3	338	29.7
不明	12	1.5	10	1.1	11	1.1	6	0.6	7	0.6	8	0.7
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

表 19. リスク認知(AIDS 感染)

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
まったくないと思う	245	30.5	337	35.7	271	27.9	321	31.3	266	24.2	303	26.6
あまりないと思う	160	19.9	208	22.1	185	19.1	226	22.0	254	23.1	293	25.8
ありそうだと思う	60	7.5	52	5.5	75	7.7	81	7.9	140	12.7	127	11.2
かなりあると思う	10	1.2	3	0.3	11	1.1	7	0.7	19	1.7	8	0.7
わからない	314	39.1	334	35.4	421	43.4	386	37.6	414	37.6	395	34.7
不明	15	1.9	9	1.0	8	0.8	6	0.6	8	0.7	11	1.0
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

## (6) 日常生活

### ◆各種経験(表 20)

セックスの意味を知っている中学生における各種経験の割合を表 20 に示す。「出会い系サイト」利用者は、男子では 1~2%、女子では 2~6%で少数ではあるが利用しており(男女差は、2年、3年で  $p<0.001$ )、特に女子で高学年ほど利用者が増加した ( $p<0.001$ )。「テレクラ」利用者はこれよりも利用率は低く、男子 0.7~1.5%、女子 0.3~2.7%で、中3で高くなり ( $p<0.001$ ) 女子の方が多かった ( $p<0.001$ )。「援助交際」経験者は、男子は 0~0.5%、女子では 0.7~1.1%で少数ではあるが存在し、やはり女子の方が多かった ( $p<0.05$ 、0.01, Fisher の直接確率)。

表 20. 各種経験(複数回答)

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
出会い系	13	1.6	21	2.2	11	1.1	55	5.4	25	2.3	71	6.2
テレクラ	6	0.7	3	0.3	9	0.9	8	0.8	17	1.5	31	2.7
援助交際	4	0.5	7	0.7	2	0.2	11	1.1	0	0.0	8	0.7
合計	n=804		n=943		n=971		n=1027		n=1101		n=1137	

◆交際状況（表 21）

セックスの意味を知っている中学生に交際経験を尋ねた（表 21）。セックスの意味を知っている生徒のうち交際経験がある生徒の割合は、中 1 では男子 32.3%、女子 31.0%と約 3 割、中 2 では男子 42.5%、女子 43.5%と約 4 割、中 3 では男子 47.4%、女子 52.7%（男女差  $p=0.01$ ）で約 5 割と高学年ほど交際している人が増加し、女子の増加が大きかった（男女とも  $p<0.001$ ）。

表 21.これまでの交際状況

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
付き合ったことがない	539	67.0	642	68.1	556	57.3	571	55.6	576	52.3	532	46.8
以前はつきあっていたが現在はいない	179	22.3	203	21.5	275	28.3	288	28.0	350	31.8	404	35.5
現在付き合っている人がいる	80	10.0	90	9.5	138	14.2	159	15.5	172	15.6	196	17.2
不明	6	0.7	8	0.8	2	0.2	9	0.9	3	0.3	5	0.4
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

◆交際相手の内訳（表 22）

現在、交際している中学生の相手の属性を表 22 に示す。交際相手の内訳を見ると、中 2 までは 9 割が自分達と同じ中学生と交際していたが、中 3 女子では高校生・大学生・社会人など年長者との交際の割合が 2 割くらいに増加した（ $p<0.001$ ）。

表 22.交際相手(現在付き合っている人のうち)

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
小学生	4	5.0	5	5.6	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0
中学生	70	87.5	79	87.8	126	91.3	142	89.3	162	94.2	152	77.6
高校生	2	2.5	1	1.1	5	3.6	9	5.7	8	4.7	32	16.3
フリーター	0	0.0	0	0.0	1	0.7	1	0.6	0	0.0	3	1.5
大学生	0	0.0	2	2.2	0	0.0	1	0.6	0	0.0	3	1.5
社会人	0	0.0	2	2.2	1	0.7	5	3.1	0	0.0	3	1.5
その他	0	0.0	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	4	5.0	1	1.1	4	2.9	1	0.6	1	0.6	3	1.5
合計	80	100	90	100	138	100	159	100	172	100	196	100

(7) 性行動

◆セックスの経験率（表 23）

セックスの経験率を表 23 に示す。中 1 では男子 1.7%、女子 1.7%、中 2 では男子 3.1%、女子 3.9%、中 3 では男子 6.2%、女子 7.3%と数%と高学年ほど経験率が増加し（男女とも  $p<0.001$ ）、有意ではないが、男子より女子が高率であった。

表 23.セックス経験者の割合

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
はい	19	1.7	19	1.7	36	3.1	45	3.9	78	6.2	89	7.3
いいえ	882	79.4	979	86.0	1013	86.2	1015	87.1	1055	84.3	1060	86.8
不明	210	18.9	140	12.3	126	10.7	105	9.0	118	9.4	72	5.9



合計 1111 100 1138 100 | 1175 100 1165 100 | 1251 100 1221 100

◆これまでの相手の総数 (表 24)

セックスの経験者にこれまでの相手の総数を尋ねた。経験者の数が少ないため詳細な記述は避けるが、これまでの相手の数が1人という人は学年にかかわらず経験者の約半数にとどまった。

表 24. これまでの相手の数

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
1人	8	42.1	8	42.1	7	19.4	21	46.7	36	46.2	46	51.7
2人	5	26.3	6	31.6	11	30.6	12	26.7	17	21.8	23	25.8
3人	1	5.3	0	0.0	4	11.1	1	2.2	12	15.4	4	4.5
4人以上	5	26.3	3	15.8	14	38.9	7	15.6	12	15.4	14	15.7
不明	0	0.0	2	10.5	0	0.0	4	8.9	1	1.3	2	2.2
合計	19	100	19	100	36	100	45	100	78	100	89	100

◆コンドーム使用状況 (表 25、表 26)

セックスの経験者にコンドーム使用意図 (表 25) と過去3ヶ月のコンドーム使用率 (表 26) を尋ねた。「毎回使おうと思った」人は中1で1~2割、中2で4割、中3で5割であり、実際に「毎回使った」人は、中1で1割、中2で3割、中3で4~5割と低学年ほど無防備な性行動をとっていることが示された (学年変化 男  $p<0.01$ 、女  $p=0.07$ )。

表 25. 過去3ヶ月のコンドーム使用意図

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
全く思わなかった	9	47.4	7	36.8	12	33.3	1	2.2	12	15.4	9	10.1
思わないことが多かった	2	10.5	1	5.3	3	8.3	4	8.9	5	6.4	4	4.5
思うときと思わないときと半々	0	0.0	4	21.1	4	11.1	6	13.3	14	17.9	9	10.1
思うときが多かった	5	26.3	2	10.5	3	8.3	9	20.0	12	15.4	16	18.0
毎回使った	3	15.8	3	15.8	13	36.1	20	44.4	35	44.9	48	53.9
不明	0	0.0	2	10.5	1	2.8	5	11.1	0	0.0	3	3.4
合計	19	100	19	100	36	100	45	100	78	100	89	100

表 26. 過去3ヶ月のコンドーム使用状況

	1年生				2年生				3年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
一度も使わなかった	9	47.4	9	47.4	13	36.1	6	13.3	15	19.2	8	9.0
使わないことが多かった	1	5.3	0	0.0	5	13.9	6	13.3	6	7.7	10	11.2
使ったり使わなかったり半々	0	0.0	4	21.1	4	11.1	2	4.4	8	10.3	16	18.0
使うほうが多かった	6	31.6	1	5.3	3	8.3	11	24.4	9	11.5	15	16.9
毎回使った	2	10.5	2	10.5	10	27.8	15	33.3	40	51.3	37	41.6
不明	1	5.3	3	15.8	1	2.8	5	11.1	0	0.0	3	3.4
合計	19	100	19	100	36	100	45	100	78	100	89	100

(8) 性意識・予防意識

◆セックスを拒否する自信 (表 27)

セックスの意味を知っている中学生に『もし、つきあっている人からセックスしようと言われたら、いやだといえますか?』と尋ねた (表 27)。2~3 割の生徒が「わからない」と答えていた。男子では、各学年とも「嫌ではないので断らない」が2~3 割で最も多く、女子では、「嫌だといえるかもしれない」が2~3 割で最も多かった (いずれも男女差  $p < 0.001$ )。拒否する自信を持つ生徒の割合は高学年ほど低下していた ( $p < 0.001$ )。

表 27.セックス拒否自信

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
いやだけれども絶対いえない	54	6.7	52	5.5	37	3.8	46	4.5	39	3.5	55	4.8
いやだと言えるかもしれない	113	14.1	224	23.8	135	13.9	263	25.6	125	11.4	286	25.2
いやだと言える	136	16.9	207	22.0	131	13.5	219	21.3	102	9.3	225	19.8
いやだと絶対言える	93	11.6	172	18.2	74	7.6	145	14.1	50	4.5	131	11.5
いやではないので断らない	171	21.3	82	8.7	258	26.6	118	11.5	386	35.1	161	14.2
わからない	226	28.1	198	21.0	319	32.9	226	22.0	381	34.6	261	23.0
不明	11	1.4	8	0.8	17	1.8	10	1.0	18	1.6	18	1.6
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

◆コンドームの意味を知っている生徒の割合 (表 28)

セックスの意味を知っている中学生に「コンドームが何か知っているか?」を尋ねた (表 28)。セックスの意味自体は知っているにもかかわらず、中3で9割、中2で8割、中1では6~7割がコンドームの意味を知っているにとどまった。

表 28.コンドームが何か知っている人の割合

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
はい	518	64.4	636	67.4	786	80.9	871	84.8	961	87.3	1041	91.6
いいえ	277	34.5	298	31.6	177	18.2	150	14.6	131	11.9	87	7.7
不明	9	1.1	9	1.0	8	0.8	6	0.6	9	0.8	9	0.8
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

◆コンドームに対する態度（表 29）

コンドームの意味を知っている中学生にコンドームに対する意識を尋ねた（表 29）。「コンドームを持っている人は遊んでいる人だと思う。」は、男女とも中 1、中 2 で約 20%で、中 3 では 14%に減少していた（学年変化  $p<0.01$ ）。「コンドームを使う男性は相手のことを大切にしていると思う」は、男子では学年変化はないが、女子では中 1、中 2 で約 5 割、中 3 女子で約 6 割を示した（ $p<0.001$ ）。「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」は、中 1 で 4 割、中 2 で 4~5 割、中 3 で 5~6 割で、男女とも増加したが（ $p<0.01$ ）、女性でより顕著であった（ $p<0.001$ ）。「大切な相手とコンドームを使いたいか」は中 1 で 4 割、中 2 で 4 割、中 3 女子で 5 割であり、「健康管理」とほぼ同じ傾向を示した。これらコンドームに対する態度を全体で見ると、高学年ほど肯定的態度を示し、男女では女性の方がより肯定的であった。

表 29.コンドームに対する態度（「そう思う人」の割合）

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
コンドームは遊び人	113	21.8	145	22.8	175	22.3	171	19.6	137	14.3	149	14.3
コンドームを使う男は相手を大切にしている	242	46.7	314	49.4	366	46.6	475	54.5	447	46.5	645	62.0
コンドームを使う女は健康管理ができています	190	36.7	268	42.1	318	40.5	408	46.8	431	44.8	591	56.8
大切な相手とコンドームを使いたい	198	38.2	265	41.7	300	38.2	389	44.7	436	45.4	570	54.8
合計	518	100	636	100	786	100	871	100	961	100	1041	100

◆中学生のセックスを認めている人の割合（表 30）

セックスの意味を知っている生徒に「中学生がセックスをすることをどう思うか」を尋ねた（表 30）。「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」を合わせた中学生のセックスを容認している生徒の割合は、中 1 男子 29.1%、中 1 女子 25.3%、中 2 男子 34.8%、中 2 女子 32.6%、中 3 男子 43.5%、中 3 女子 40.8%と 3~4 割近い生徒が容認しており、高学年ほど容認率が上昇し（ $p<0.001$ ）、性別では男子の方が容認する傾向が強かった。つまり、高学年ほど規範意識が減少し、男子の方が規範が低い。

表 30 中学生がセックスすることについてどう思うか

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
かまわない	145	18.0	119	12.6	226	23.3	194	18.9	327	29.7	269	23.7
どちらかと言えばかまわない	89	11.1	120	12.7	112	11.5	141	13.7	152	13.8	194	17.1
どちらかと言えばよくない	153	19.0	227	24.1	204	21.0	259	25.2	210	19.1	257	22.6
よくない	287	35.7	358	38.0	251	25.8	296	28.8	189	17.2	248	21.8
わからない	109	13.6	96	10.2	150	15.4	95	9.3	154	14.0	104	9.1
不明	21	2.6	23	2.4	28	2.9	42	4.1	69	6.3	65	5.7
合計	804	100	943	100	971	100	1027	100	1101	100	1137	100

◆中学生のセックスに対する態度（表 31）

セックスの意味を知っている中学生に対して各種性規範を尋ねた（表 31）。「中学生のセックスは早い」と思っている人は中 1 約 6 割、中 2 で 5 割、中 3 で約 4～5 割であった（学年差  $p<0.001$ ）。「コンドームを使えばかまわない」は、中 1 で 1～2 割、中 2 で 2～3 割、中 3 で 3 割であった（学年差  $p<0.001$ ）。「別の付き合い方もある」は学年にかかわらず男子の 7 割、女子の 8 割が同意していた。「おたがい好きならかまわない」は中 1 で 3 割、中 2 で 4 割、中 3 で 4-5 割であった（学年差  $p<0.001$ ）。「好きでも簡単にセックスするのはよくない」は学年にかかわらず 6～7 割が同意しており、その傾向は女子でより顕著であった。「付き合っている人ならかまわない」は 2～3 割で、学年が上がるほど高く（ $p<0.01$ ）、助詞より男子が高かった（ $p<0.05, 0.01$ ）。「別の付き合い方もある」「簡単にセックスするのはよくない」と 7 割以上の人同意しながら、一方で 5 割の人が「おたがい好きならかまわない」とも考えており、中学生が考える「簡単なセックス」「別の付き合い方」の概念が我々大人と異なっている可能性もあると考えられる。

表 31. 中学生のセックスに対する態度(「そう思う」人の割合)

	1 年生				2 年生				3 年生			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
中学生のセックスは早い	473	58.8	587	62.2	501	51.6	563	54.8	460	41.8	527	46.4
コンドームを使えばかまわない	153	19.0	144	15.3	237	24.4	244	23.8	346	31.4	321	28.2
別の付き合い方もある	557	69.3	765	81.1	706	72.7	845	82.3	807	73.3	912	80.2
お互い好きならかまわない	283	35.2	285	30.2	398	41.0	373	36.3	553	50.2	493	43.4
好きでも簡単にセックスするのは良くない	512	63.7	690	73.2	570	58.7	763	74.3	610	55.4	817	71.9
付き合ってる人ならかまわない	163	20.3	152	16.1	204	21.0	165	16.1	308	28.0	253	22.3
合計	n=804		n=943		n=971		n=1027		n=1101		n=1137	